

KSK

川崎市障害者社会参加
推進センター通信

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター
所長 中込 義昌
編集責任者 広報・啓発委員会
委員長 伊藤 實
〒210-0834 川崎市大島 1-8-6
川崎市南部身体障害者福祉会館内
電話 044-246-6941
FAX 044-246-6943
E-mail zksk@nifty.com
<http://kawashinkyo.org>

平成 30 年度 川崎市障害者作品展



(作品展の様子 アートガーデンかわさき第 1 展示室)

平成 30 年度 川崎市障害者作品展がアートガーデンかわさき第 1 展示室にて、12 月 19 日(水)～12 月 23 日(日)の 5 日間にわたり開催されました。

今年度の出展数は、絵画 37 点・手工芸品 16 点・書 9 点・写真 8 点・俳句等 4 点計 74 点と昨年を上回る数の出展がありました。

また、観覧者数も昨年度は 257 名でしたが、今年度は 303 名と増加しています。少しずつですが、障害者作品展が認知されてきている事と思われます。

また、22 日(土)、23 日(日)に同時開催されたワークショップ(創作体験)も好評で、おし

ゃれピンチ作り・3 色パステルアート・クリスマスリース・ツリー作り・ハーバリウム作りの 4 種でそれぞれ 10 名以上の方々が体験されました。

作品展に観覧に来られた方からは、『頑張って造った、書いた気持ちが伝わってくる』『様々な障害にめげず頑張って居られる様子が伝わってきます。私も負けずに頑張らねばと思いました。これからもお体大切に頑張って良い作品をお作り下さい』『様々な障害のある方が工夫して 1 つの作品を創り上げているのだと思うと、勇気を頂きました』『作成にあたっての思いが書いてあるので、より作品を

楽しく鑑賞できました』『ワークショップに参加して楽しかったです。作品も丁寧に作られていて感心しました』『ワークショップは包装や額縁までして下さり、大満足でした』等の感想が寄せられました。

また、出展者からは『みんなと一緒に取り組み、目標をもってやることができよかったです。外出の機会になりました』『作品作りも作品展見学もとても楽しみにしており、達成感につながっています』『初めての出展で展示方法など悩みましたが、相談にのっていただきありがたかったです』等の感想を頂きました。
事務局



ワークショップ【ハーバリウム作り】



横断幕のデザインが新しくなりました♪



ワークショップ【おしゃれピンチ作り】



ワークショップ【3色パステルアート】



ワークショップ【クリスマスリース・ツリー作り】



昨年よりも多くの方に来場していただきました



中学生からの出展もありました

手をつなぐ育成会関東甲信越大会 2つの分科会を終えて

川崎市育成会手をつなぐ親の会は、昨年9月14日(金)、同会としてははじめてとなる手をつなぐ育成会関東甲信越大会を開催しました。大会では2つの分科会が行われました。

その概要は、次のとおりです。

○第1分科会「働く」

～新しい働き方の選択肢を探る

◇講師・須藤シンジ氏 (NPO 法人ピポルデザイン研究所代表理事)：川崎の活動で、等々力競技場で開催される川崎フロンターレの試合で障害者がボランティア報酬を得て就労体験してもらおうコーディネートをしています。

人口の約7%が障害者という中、スタッフの7%が障害者というところをめざし、社会に混ざる実践として清掃作業などを行う。

就労体験参加者の中には、働きたくなって、159人が、正規や一般就労者に。社会保障費が減少傾向にあって、本当に必要な人たちに届くためにも、働ける人々にこやかに働いてもらおうと就労体験を進めています。

◇講師・近藤武夫氏 (東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学准教授)：私たちは、会社に『障害者のための仕事を作る』のではなく、短時間でもこの仕事をしてくれれば凄く助かるという仕事がある。その仕事ができる人を連れてくる仕組みを考える。「ショートタイムスタッフがあなたの仕事を助けます」というお知らせ映像を企業内に流す所もあります。

○第2分科会「高齢」

～親の支援なきあとの障害ある人の生活を考える

■基調講演 福岡寿氏 (日本相談支援専門員協会顧問、長野県自立支援協議会会長)：長峯学園で働きはじめて4年立ったとき、園長から「コーディネーターをやってみないか」と言われ相談支援専門員としての仕事をはじめた。最初はパッチワークのようにサービスを組み合わせるのがこの仕事とっていた。地域生活移行をしていくうちに、障害のある人を真ん中に置いた支援が大事と気付かされた。

『親なきあと』といったとき、成年後見、財産、兄弟姉妹に託すのもそれぞれ大事。

けれども最も大事なものは、我が子に関して

最低でも3か月に1回、集まり「どうする?」「どうする?」と考えてくれる人をつくれるかどうか。それができていれば、「65歳になったから介護保険制度に移りましょう」といった制度上の約束でなく、本人の思いやりや健康状態、意欲などの視点からの支援が実現すると思います。

■シンポジウム

◇又村あおい氏 (全国手をつなぐ育成会連合会政策センター委員、(社)日本発達障害福祉連盟「JLニュース」編集長)：65歳になり介護保険サービスに移る障害福祉サービスは、ヘルパーサービス、生活介護、短期入所です。65歳になっても引き続き使える障害福祉サービスは、行動援護・同行援護、就労移行。就労継続とグループホームで、入所施設は介護保険適用外。課題もあるが、障害福祉サービス事業所に通う人が65歳になっても同じ事業所に通えるように、障害福祉サービス事業所が共生型サービスの指定を受けられるようになりました。

◇佐藤嘉晃^{よしてろ}氏 (社会福祉法人大田幸陽会参与)：大田幸陽会は、親なきあとや親の思いを具現化するため大田区の協力のもと平成5年3月に設立。親も子も、年をとっても地域で暮らせるように、グループホームと高齢者向け住宅の入ったラナハウス西糀谷を平成25年4月に創設しました。サービス付き高齢者向け住宅は、高齢化対策の一つとして国土交通省の住宅施策と厚生労働省の福祉施策の連携から生まれました。サークル活動を行うなど、長屋のようなイメージで暮らしています。

◇田中正博氏 (全国手をつなぐ育成会連合会統括)：2025年問題、2040年問題と、人口の構成や地域格差などから、今後の我が国の社会保障には厳しい状況は待ち構えています。「地域包括ケアシステム」「我が事・丸ごと」の中に描かれているように、介護保険サービスと上手く出会い、上手に使っていく前向きな姿勢も大事なのではないかと思います。

(社会福祉法人ともかわさき 安達義春)

川崎市自閉症協会の活動～ペアレントメンター 1 期生誕生

川崎市自閉症協会が川崎市から委託された新事業の「ペアレントメンター養成講座」が、1月20日の第10回で、無事終了しました。川崎市内の、発達障害の子どもを育てた親が、同じ境遇にある保護者に寄り添い、手助けをする「ペアレントメンター」の第1期生が誕生しました。相談者の信頼を得られるよう、傾聴や肯定的な関わり方などについて、講義やワークショップなどの10回のトレーニングを受けた18人が、川崎市からの修了証書を授与されました。10回目の講義は、代表理事である私が「本人の意志と希望を尊重した支援を～本人中心支援をするために、親として～」と題して、子どもの心に根気よく向き合うために不可欠な「人権」や「意思決定支援」についてお話しさせていただきました。その後10回の総評を、高木一江理事(元川崎市発達相談支援センター所長、現横浜市中部療育センター所長)が「ペアレントメンターは家族支援」等留意点をお話しされました。そして浅野史郎理事(元宮城県知事、現神奈川大学教授)に修了証書授与をしていただきました。



第2期(2019年度)も、同じように10回の養成講座を行います。新年度になりましたら応募要領を發表しますので、皆さまの応募をお待ちしています。第1回は2019年5月11日、高木一江先生を講師に、啓発も兼ねて「発達障害のある子の子育て」と題して、公開講座を開催します(中原区役所5階)。親でなくても関心のある方々はお誘いあって、多数ご参加くださいますと嬉しいです。

今回修了書授与されなかった方は、第2期の養成講座で未受講の講座のみ受講していただき、修了とします。修了した第1期生には、「ペアレントメンターサロン」(仮称)として、フォローアップセミナー(研修と相談会)を開催します。川崎市自閉症協会として、専門家理事や今回の講師及び川崎市発達相談支援センターと連携し、川崎市には施策として、メンター養成講座の継続と相談の機会の確保をしていただき「信頼できる相談相手」のメンターを確実に増やしていきたいと思えます。

次いで、今年も開催する世界自閉症啓発デーのイベントのご案内をします。国連が定めた「世界自閉症啓発デー」(4月2日)を含めた「発達障害啓発週間」(4月2日～8日)で、川崎市自閉症協会は、2009年4月に「ようこそ自閉症ワールドへ」を主催して以来、市民対象に自閉症の普及・啓発活動を実施していますが、2019年は、12回目。4月2日(チッタデッラの中央噴水広場)と、4月4日「ジェイミーのコンサート」(川崎ミュージア)で、発達障害の啓発活動を行います。

4月2日(火)は、啓発イベント(トーク&ライブ)と「ガラスの塔」の点灯式を行います。ライブゲストは、昨年好評だった「ソーシーズ」さん、自閉症ミュージシャンの「ノブタク」さん、元タカラジェンヌの星乃あんりさん。3組の楽しく素敵なライブです。トークは、明石洋子が行います。川崎のマスコット、ふろん太くん(川崎フロンターレ)とノルフィンちゃん(川崎市バス)がお迎えます。今年からラゾーナもブルーライトアップをして下さいます。皆さまのご協力に感謝です。お誘いあわせの上ご来場ください。



一般社団法人川崎市自閉症協会代表理事

あかし しょうこ
明石 洋子(薬剤師・社会福祉士)

川崎市内の作業所紹介 「つくし」

☆今日は、ともかわさきの「つくし」について色々教えてもらえるそうですが、つくしてどこにあるんですって？

幸区在住ですが、よくわからなくて。

♪夢見ヶ崎動物公園わかります？レッサーパンダとかいるところ。

☆あ、お花見で行ったことがあります。桜の名所ですね。

♪つくしは、その裏手にひっそりとたたずんでいます。

☆となると最寄り駅はどこですか？

♪JR 新川崎駅です。駅を出て橋を渡り、20 分近く歩くとたどり着きます。

☆歩くと結構かかりそうですね。車で行った方がスムーズかな？

♪それが、一方通行の狭い路地なので車でのアクセスも容易ではありません。

と、これだけ見ると不便な印象ですが、見方を変えればよいこともあります。

・大きな通りに面してないので、車通りが少なく静かで安全

・隣が夢見ヶ崎動物公園なので、自然豊かで散歩にもってこい。

・そばに大きな建物がなくて、日当たりが良く開放的・・・などなど。

☆なるほど。場所はわかりました。今度探してみたいと思います。

♪お花見ついでに是非いらして下さい。

41 名の利用者さんが、毎日元気に過ごしています。

☆皆さんいつもどんな活動をしているんですか？

♪普段は下請のお仕事や自主製品作り、リハビリやストレッチ・リラクゼーション、外出などのプログラム。もちろんそれ以外に色々な行事が入ります。夏のつくしまつりと冬の演芸祭はかなり盛り上がります。

☆つくしの活動といえば、クッキーが割と有名ですね？

♪実は昨年 (2018 年) の春で、クッキー作りは惜しまれつつ終了したのです。現在、それに代わる新製品として芳香剤などを売り出し中です。

変わることといえば、来年 (2020 年) の春から、つくしは建替え工事が始まります。2 年間の予定で、2022 年春に完成する見込みです。

☆じゃあその間はどこかに間借りをするんですか？

♪いえ、ちょうどその春に中原区の上平間に開所する、ともかわさきの新たな事業所に移ります。鹿島田駅から徒歩 10 分程の、配水所の跡地に建設中です。

☆そういえば、最近あの辺りで大掛かりな工事をしていますね。

♪その名もずばり「ひらま」です。皆でそこに移るので、出来たばかりの新しい事業所を最初に使えるわけです。

☆いいですね。でも施設の引っ越しって、結構大変じゃないですか？

♪そうですね。環境が大きく変わるのは利用者さん・職員にとってなかなかの一大事だと思います。今は、ひらまにスムーズに移れるように少しずつ準備中です。場所が変わってもつくしの支援の基本は変わらずに、皆さんが安心して通えるよう準備万端整えて明るい春を迎えたいと思います。そんな「つくし」ですが、今後は「ひらま」ともどもよろしく願いいたします。

<おしまい>



2018 年度バスハイク実行委員を経験して

私、家族会に入って 14 年ほど経ちますが、初めの頃からずっとあやめ会で旅行に行く事など、私にとっては何か他人事でした。それが泰山木の家族相談会の時前会長から「青木さんバスハイク参加にしておくね」と言われ不本意ながら参加したのですが、たまたまお隣に居合わせた見ず知らずの会員さん(その方には大変失礼なのですが)とのバカ話が楽しくて「あ、こんなのなら参加しても良いわ」と思った事もあり、以後現会長からの「青木さん、バスハイク参加ね」の一言に不本意ながら押し切られ、バカ話のお相手さんはその後不参加で一緒できず、鳴かず飛ばずの小旅行が 2 回ほど続きました。その 4 回目に私は何と実行委員にまつりあげられました。晴天の霹靂とはまさにこの事です。

さて本題に入りますが、またまた不本意に実行委員になった私には 1 つだけ強い味方がありました。それはこういう事を企画実施する事を業とする会社に勤務する娘の存在です。娘はおせっかい半分、プロづら(面)半分で当初えらく熱心に私の相談に乗ってくれました。「はとバスの行くような所がいいのではないですか? しかもその行程の半分位で」とかで「私はスカイツリーに一度も行った事がないので行ってみたい。ついでにその近くの浅草で色付けを…」と意外とすんなり大枠が決まりこれがベストだと思うに至りました。



スカイツリーの醍醐味はやはり眼下に広がる大パノラマでしょう。10 月 17 日(水)当日はあいにくの曇り空で遠くの山までは分かりませんが、すぐ眼下に流れる隅田川にかかる特徴ある橋から大体の方向が分かったのではないでしょ



(スカイツリー展望デッキにて)

うか。展望デッキでも東京タワーより高いのですから、ガラス床を歩いて下半身にひんやり感を感じながらその高さを楽しめた事でしょう。

その後の和食割烹「とんぼ」での昼食。下見に行った時は船形の器でとてもおいしく、これなら自信を持って皆さんに喜んでもらえると思ったのですが、やはり大量の作り置きはお刺身・天ぷらともに少し味が落ちた気がし



(雷門前にて)

て少なからずがっかりしました。そしてこの『とんぼ』に決まるまでの係としての紆余曲折も、娘のお勧め弁当を選ばなかった事でここまで協力的だった娘の怒りを買う羽目となり、その後協力を一切断られる羽目となりました。皆さんは信じられないでしょうが、こういう小旅行では昼食をどうするのかでコース自体さえ変わってしまう可能性も十分ある

のです。そして結果的に「とんぼ」を選んだ事で浅草観光が実現出来て、実行委員としては本当に良かったと思っています。

皆さん浅草は楽しめましたか。雷門が浅草の玄関なら、二天門はいわば裏門ですから裏門から入り裏門から出るという今回のスタイルは、あまり浅草らしさを味わえなかったと思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、雷門通りで大型バスがしかも 2 台降車するのは難しいと言うバス運転手さんの意見を尊重し、二天門通りを歩いて浅草に入る事になりました。私は、大人になってからは浅草はほぼ初めてと言うバスハイク初参加の我が息子と、浅草寺にお参りし、それからスイーツ食べ歩きをしました。九重の「あげまんじゅう」あずまの「きびだんご」を買って二人で腕を組んで雷門をくぐり、浅草文化観光センターに行き、8 階に上がってスカイツリーや今通ってきた仲見世通りを見下ろしながら「きびだんご」を食べました。

先日、外国人観光客が選ぶ日本のお土産ベスト 30 という番組で何と浅草のお菓子が 2 つもベスト 10 入りしていました。「雷おこし」と「人形焼」です。いかに浅草が外国人観光客に愛されているかの現れですね。

さて皆さんは、新旧 2 か所の東京を訪ねていかがでしたか？私にとっては思い入れも深く、もっと多くの参加者を期待しましたが、ふたを開ければ例年並みの 66 名でした。実行委員としては、比較的近い東京の今回の様な場所でも、66 名を連れて行くのは大変な事なのだと思ってもって実感致しました。

今後、こういう貴重な体験をして下さる人が出てくることを期待します。



泰山木の会 あおき としみ 青木 敏美

障害者週間記念のつどい

いが、平成 30 年 11 月 17 日(土) 12:00 から、とどろきアリーナの 1 階ステージにて開催されました。今年度は、同日共同開催の「手をつなぐフェスティバル」の中で、表彰式が行われました。

今年度の表彰者は次の方々です。

◎「障害者週間」記念 川崎市長表彰者

・身体障害者自立更生者

なかにし のぶき
中西 信行 様

・身体障害者更生援護功労者

はしもと としこ
橋本 斗志子 様

こばやし まもる
小林 守 様

まつもと ゆうじ
松本 雄治 様

さいとう けいこ
斎藤 恵子 様

おかもと のぶこ
岡本 暢子 様

きはら よしみ
木原 芳美 様

・身体障害者特別表彰者

こばやし たつお
小林 辰夫 様

・心身障害児(者)福祉功労者(育成功労者)

よしの あけみ
吉野 明美 様

・心身障害児(者)歯科治療事業

たかもり かつひさ
高森 勝久 様

・「心の輪を広げる体験作文」入賞作品表彰

中学生部門

いしかわ かずま 石川 和磨 様 最優秀賞 中学 3 年生

いづみたに なつき 泉谷 奈月 様 優秀賞 中学 3 年生

すずき さな 鈴木 紗奈 様 優秀賞 中学 3 年生

一般部門

くめ えり 久米 映里 様 最優秀賞 会社員

・「障害者週間のポスター」入賞作品表彰

かつき こはる 勝木 湖春 様 最優秀賞 中学 2 年生

かわしま ひなた 川島 ひなた 様 優秀賞 中学 2 年生

ほそや りさ 細谷 璃紗 様 優秀賞 中学 1 年生

表彰作文及びポスターについては市ホームページにてご参照ください。 事務局

全難聴福祉大会 in 山口に参加して

2018 年 11 月 24 日(土)～26 日(月)山口県国際総合センターにて「第 24 回全難聴福祉大会 in 山口」が開催されました。

1 日目は 4 つの分科会でしたが、今回、第 3 分科会の「きこえの健康支援の仕組みを学ぼう」に参加しました。内容は 3 つの題目について、全難聴きこえの健康プロジェクトメンバーの講師で進められました。

①きこえの健康支援とは？

難聴者の「きこえ」に関する相談の受け皿、生活の質(QOL)向上、補聴器や人工内耳の相談、医療と社会支援の融合などの必要性から、全難聴が 2013 年に「きこえの健康支援センター構想」を提案したもの。平成 30 年 7 月、東京都を中心に社会実験を行う準備で開始した。「きこえの健康支援センター」は、一度相談すれば全ての支援が受けられるようワンストップ型の総合支援を目指します。

②きこえの健康支援を模擬体験しよう

当日は、メンバーが中心になり A 氏～C 氏の相談を受ける模擬体験を行った。難聴者が職場で困っているような場合、職場へ聞きやすい環境の提案や、補聴器・人工内耳の相談は勿論、難聴による問題解決のさまざまな相談や提案などを行った。また、家族にも難聴による問題点の対応などの説明をした。

③きこえの健康支援の先進性について

ハワイ州公認メンタルヘルスカウンセラーの草地美穂子氏による講演。本人は中途の難聴者。現在、ハワイ州政府健康省障害者総合支援機関に勤務しており、当日はハワイから駆けつけた。日本では、やっと「差別解消法」が出来たが、アメリカでは「差別禁止法」の歴史があり 1990 年に「ADA」(アメリカ人障害者法)が出来、全ての障害者に対する差別を禁止という強力な法律がある。アメリカの「きこえの総合支援センター」の特長は、支援医療(聴

覚補償支援・心理支援含む)に健康保険が適用される。しかし、専門家養成機関の基準や有資格者に対する監査がたいへん厳しく、有資格者は 3 年ごとに資格を更新する必要がある。

ちなみにアメリカでの難聴者に対する情報保障は、要約筆記ではなく、全て全文表示方式で、日本のような情文センターや派遣センターは無い。入力者の養成は、プロの学校を卒業して資格をとる。アメリカでは情報保障を行う場所に責任があるので、必ず事業者が情報保障を用意する義務があるとのこと。

2 日目は、全体会で「聴覚障害者が抱えるニーズに応える街づくり施設づくり」～ユニバーサルデザイン 2020 行動計画～の講演。講師は、秋山哲男氏(中央大学研究機構)。

3 日目は、観光バス 2 台で「絶景・下関・北浦(日本海)コース」一日観光でした。

NPO 法人川崎市中途失聴・難聴者協会
理事長 伊藤 實

編 集 後 記

昨年の世相を表す文字は”災”と発表されました。しかし、今年は年号が平成から〇〇に代わる年でもあり、是非”災”転じて、明るい年になってほしいと思います。

今年は、来年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、社会の動きも高まってきています。今大会では、ボランティアの数も募集より遥かに応募者数が上回ったようです。

ここに至るまでには準備等大変だったと思いますが、今までにない日本が誇れるオリンピック・パラリンピックになることを期待し無事終えることを願っています。

又これを機に、健常者と障がい者が今以上共生できる社会になる事を願うばかりです。

編集委員 渡辺 幾子

発行人 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール
3F 横浜市車椅子の会内 (頒価 100 円)